

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 清崎 忠園
平塚市豊原町 23 - 14
Tel(Fax) : 0463-31-6718

隊友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

娘に教えてもらいました

特別会員 市川 和広

昨年、最愛の娘が20歳になった。物心ついたころには私が議員ということもあり、恐らく嫌な思いもしたのではないかと思うが、直接、何かを言われたことはなかった。

更に、ほとんど家にいなかった私を娘はいつもどう思っているのだろうと心配していました。今は大学3年生で、韓国語の勉強をしている。

一時期、家に戻ると韓国ドラマしか流れていなくて、「他のテレビを見せてもらえないか。」とお願ひしたが、見せてもらえなかつた。

その甲斐があつたせいなのかどうかは分からないが、今では日常会話が話せるようになり、今後はその語学力を活かした仕事が見たいと望んでいる。そんな中、娘から連絡があつた。「パパの知り合いに、こんな私を使ってくれませんか」と。

娘の申し出に嬉しくなつて、あれこれ動いてみたが、世の中はそんなに甘いものではありません。「パパ、使えない。」今どきの言葉が返ってきました。そんな時、駐横浜大韓民国総領事館と神奈川県議会日韓親善議員連盟有志の会とで、自転車交流会がありました。

総領事や領事とデフリンピック選手とでヤビツ峠と一緒にサイクリングするイベントです。その式典において、私の娘が韓国に帰任する領事に花束を渡す大役をいただきました。緊張の中、韓国語であいさつをする娘を見て、正直、誇らしく思いました。それからは、ことあるごとに娘といろいろな話をするようになりました。時には、「パパは若い年代の気持ちはわかっていない。」と厳しい指摘を受けます・・・

この原稿を書くにあたり、楽しかつたことを紹介してくださいと話がありました。ただ、日々の業務が忙しく、楽しいエピソードがありません。娘や家族との時間を過ごす大切さを教えてもらいました。

隊友会の諸先輩方におかれましては、今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

令和4年度隊友会湘南支部 部隊研修について

令和2年の春以来、新型コロナウイルス感染拡大が猛威を振るう、支部部隊研修は2年間中止せざるを得ない状況でした。それまでは、海自横須賀艦艇部隊、造修補給処、第2術科学校、海自厚木航空基地、空自浜松航空基地、陸自富士学校等の見学を計画し、それぞれ参加者50名規模で実施

して参りました。今年度は、未だコロナ禍の厳しい環境下で活躍中の部隊等を訪問、研修することは時期尚早であることから、防衛省企画の「防衛省市ヶ谷ツアー」への参加が可能であり計画しました。しかしながら、ツアーの参加定員は20名に限定されていることから参加募集は湘南支部特別会員47名(個人会員44名、法人会員3社)の皆さんを対象に行うこととなりました。

1 実施日時…
令和4年9月29(木)
1300~1600

2 参加会員…
20名(特別会員18名、支部長、高鹿担当理事役)

3 研修場所…
防衛省市ヶ谷地区の本営地下壕跡、市ヶ谷記念館(極東国際軍事裁判の法廷跡)、厚生棟等



(上段) 市ヶ谷記念館

(下段) 大講堂

なお、ツアー最後に懇親会を検討しましたが、コロナ禍の現状を鑑み割愛となりました。以上今年度の部隊研修についてご説明致しました。(高鹿担当理事役)

身近な危機管理

支部理事役 鼓 達也

JR東海道線に乗車したところ車両の床一面にコーヒースpillがこぼれていた。そのコーヒースpillを踏む人と踏まない人の違いが気になった。

7月8日元総理大臣が銃撃される事件が起き、警察は不審者が近づくことを許し1発目で反応せず、2発目は命中してしまつた。現場は見通しが良く接近は容易で、建物にも囲まれており狙撃も可能そうであり警備のプロが銃撃される事態を全く想定していなかつたこととられてもおかしくない。

話を戻すが、危機管理に対する感覚は個々でかなり異なる。ホームで並んでいる段階で到着した車両の人が他車両に比べて少ないと違和感を覚える人、車両のドアが開きコーヒースpill臭が強いことに気が付く人、車両に入り床を見て避ける人、気が付かずコーヒースpillを踏みその後も気が付かない人、コーヒースpillを踏んでも踏む人(それくらい気にしない人)、コーヒースpillを踏んでから気が

付き慌てる人、と同じ出来事でも捉え方や対処法は個々で異なる。

コーヒーを踏む程度では危機とは大げさかもしれないが、たかがコーヒーですら踏まないように気が付く態度の方もいる。危機や災害は日常生活の場

で起こる。電車内での放火やナイフを振り回す、クリニック入口での放火事件は現実であり中にはスマホやイヤホンにより気が付かない人もいる。危機は突然かつ日常にやってくる。

災害、テロ、パンデミック等、事が起こるとのその対策に奔走されていないか。特別な資材や専門知識は不要(あるに越したことはないが使い慣れていない資器材はいざというとき使用が出来ない可能性がある)。個人での危機管理は、普段から日常生活で使用する物の備蓄、普段通りの感染対策(健康管理)、それに何が危険となるのか周囲をしつかり見て判断する癖を身につけるに尽きる。

しかし、冒頭でも述べたとおり警備のプロの警察ですら手抜きと指摘されるくらい実践することは容易ではないのも事実。

おそらくは大半の方は何らかの危機管理を日常から行っているはず。その危機管理のアンテナをちよつと伸ばすことがLCPのソフト面であり、災害・テロなど危機から身を守ることに役立つはず。

「大東亜戦争」と「太平洋戦争」

日本では1925年(大正14年)の日米未来戦記などで「太平洋戦争」

が使用されたが、1941年の開戦直後に「大東亜戦争」が閣議決定された。「亜」は「亜細亜」すなわちアジアの略語)。「アジアの欧米植民地を解放し、大東亜共栄圏を設立してアジアの自立を目指す」という理念を掲げた。

植民地宗主国を中心に構成された連合国側にとつては都合が悪かったため、戦後、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)の占領政策で「大東亜戦争」は「太平洋戦争」へ強制的に変更させられた。

GHQはプレス・コードなどで「大東亜戦争」の使用を新聞で避けるように指令し、1945年12月8日(開戦4周年)以降、新聞各紙でGHQ民間情報教育局作成の『太平洋戦争史』(真実なき軍国日本の崩壊)の掲載を開始。この満州事変から太平洋戦争までを連続させ日本の侵略と残虐行為を詳細に叙述した戦史の単行本10万部は完売、GHQ指導で学校教育でも奨励され、定着した。12月15日の神道指令では軍国主義・国家主義を連想させるとして「大東亜戦争」呼称の使用を公文書において禁止した(のち失効)。

翌1946年、法律や勅令の文言は「今次ノ戦争」と改められた。1960年頃から一種のタブー扱いとされ「大東亜戦争」はメディアでの使用は控えられており、日本政府はGHQの政策以降、現在まで公的には「今次戦争」「先の大戦」「第二次世界大戦」などを用いている。

ただし2006年・2007年(平成18年度)の政府見解では「大東亜戦争」「太平洋戦争」の定義を定める法令はないとされた。(出典: Wikipedia)

ソフト面とハード面

支部理事役 深澤 文晴

東日本大震災被災地域の岩手県沿岸部に洋野町と普代村がある。この二つの町は、津波による死者がゼロの町である。他の市町村と何が違うのか検証の余地はある。

洋野町では、町を挙げたここ数年の取り組みがあった。それは、通常実施する防災訓練の内容の見直しであった。消防団の活動の見直しを実施した。発災後の町民の避難に関する活動、水門を閉鎖する活動の通常行動の他に、任務を終えた消防団員は直ちに避難を実施する事、及び町民が避難した後に低地に続く町道を封鎖する事を訓練メニューに加えて、逃げる事を重点とする訓練にした。訓練の着眼点を変える事により、消防団員や町民の意識を変える事ができた。訓練運用のソフト面で功を奏した事例である。

普代村では、1896年と1933年の津波で甚大な被害が出た。戦後の和村幸徳村長が「2度あることは、3度あってはいかん」と県に何度もお願いをして高さ15.5メートル、全長130メートルの防壁力絶大な防潮堤の建設の運びとなった。

当時は「税金の無駄遣いだ」「他のことに使えばいいのに」「この高さは必要なのか?」と言った批判が沢山あったとの事ではあるが、今回の震災では、物理的なハード面で功を奏した事例である。

都市部については、高層ビル・埋立地・密集市街地・大多数の人間及び車両など、災害が発生した場合、田舎より複合的に悲惨な事になると思われる。個人に於いても、あらゆる場面を想定して行動を考えるソフト面の充実と職場や住居付近の地形(道路・高台)などのハード面の把握をしておき災害発生時は自分の命を優先して下さい。(平成26年6月号掲載記事)

令和4年度年会費納入者(順不同・敬称略) 湘南支部長(八月十五日現在)

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

正会員

梅津雅仁、菅野新一、

- 「支部の予定」
- 09/10 (土) 第5回支部理事役会
- 09/22 (木) 9月隊友紙発送
- 09/29 (木) 部隊研修(市ヶ谷)
- 10/08 (土) 第6回支部理事役会
- 10/15 (土) 湘南・西湘支部トークセッション
- 10/20 (木) 10月隊友紙発送
- 11/初旬 名所旧跡探勝(場所未定)

編集後記

他国から、一方的な暴力を受けた場合の対応方法など、法整備が急務であると思われまます。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。